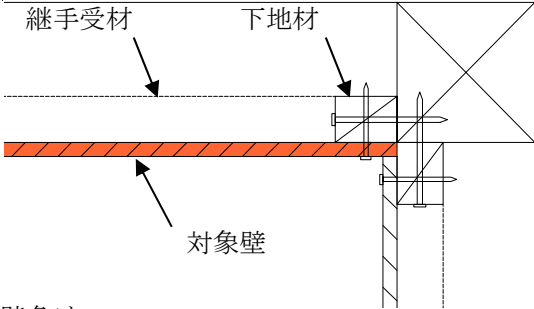
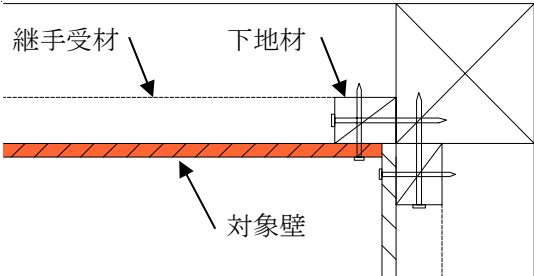
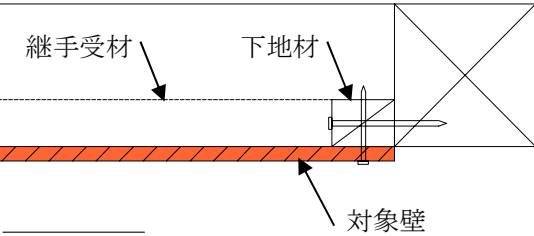
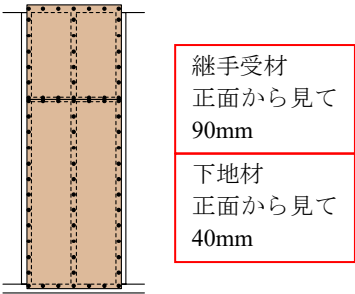


評価シート

耐震	部位	壁	分類	閉鎖型	有効期限	2027年3月31日	評価番号	A-111カ・マ・タ	
評価技術名称					連絡先	https://www.aichi-gensai.jp			
構造用合板補強工法 大壁 入隅等 「勝ち・負け・単独」裏栈あり					愛知建築地震災害軽減システム研究協議会				
					実験実施機関 :名古屋工業大学				
概要	技術概要								
	建築基準法で壁倍率が指定されている大壁の構造用合板補強で、入隅部等を補強する工法。 カ:入隅部を対象壁勝ちとする仕様 マ:入隅部を対象壁負けとする仕様 タ:片側を受材仕様で単独壁とする仕様								
要	技術の特徴						コスト		
	・ 一般流通品なので取り扱いが容易 ・ ・						サンプル構面	カ:38,003 円/kN マ:35,317 円/kN タ:35,317 円/kN	
仕様	適用範囲				写真・図				
	構法	木造在来軸組工法			大壁				
	規模	3階建て以下			対象壁勝ち:カ				
	基礎、地盤	特になし							
	適用部位	内外壁			対象壁負け:マ				
	耐震性能								
	評価仕様:大壁直貼仕様				単独壁:タ				
			壁基準耐力	壁基準剛性					
	「対象壁勝ち」		5.2 kN/m	730kN/rad./m					
	「対象壁負け」		4.16 kN/m	584kN/rad./m					
「単独壁」		4.16 kN/m	584kN/rad./m						
A-111からの低減係数α									
対象壁勝ち α = 1.0 : 壁基準耐力 5.2 × 1.0 = 5.2									
対象壁負け α = 0.8 : 壁基準耐力 5.2 × 0.8 = 4.16									
単独壁 α = 0.8 : 壁基準耐力 5.2 × 0.8 = 4.16									
設計方法									
① 柱接合部による低減 : 取付部分が健全であること									
② 劣化による低減 : 取付部分が健全であること									
施工者指定									
特になし									
主要構成部材の仕様									
構造用合板	大壁、厚 9mm、縦使い 各高さ 400mm 以上 釘 N50、CN50、@150mm 以下 間柱打ち、四周打ち 端あき 15mm 以上 20mm 以下								
間柱	奥行 30×見付 40mm 以上、 釘 N50、CN50 @150mm 以下								
継手受材	奥行 30×見付 90mm 以上 柱、下地材に対して、釘 2-N75 斜め打ち								
上下受材	なし								
四方受材	なし								
下地材	奥行 30×見付 40mm 柱に対して、釘 N75@150mm 以下 または N90 @200mm 以下								
アルミアングル	なし								
かさ上げ材	なし								